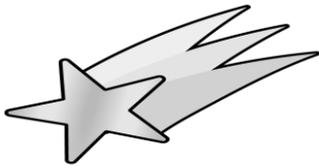


県きこし研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp http://www.iwate.nangen.jp



どの子ども子どもは星

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会

会長 紺野好弘

「どの子ども子どもは星」 東井 義雄

みんなそれぞれがそれぞれの光をいただいて
まばたきしている
ぼくの光を見てくださいとまばたきしている
わたしの光も見てくださいとまばたきしている
光を見てやろう
まばたきに 応えてやろう
光を見てももらえないと子どもの星は光を消す
まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうとしはじめている星はないか
光を消してしまおうとしている星はないか
光を見てやろう
まばたきに 応えてやろう
そして
やんちゃ者からはやんちゃ者の光
おとなしい子からはおとなしい子の光
気のはやい子からは気のはやい子の光
ゆっくりやさんからはゆっくりやさんの光
男の子からは男の子の光
女の子からは女の子の光
天いっぱい
子どもの星を
かがやかせよう

「どの子ども子どもは星」、これは東井義雄先生が、55年の教育生涯の中で最も大切にされた教育信条だと言われています。子どもが10人いれば十人十色です。さまざまな光を発しています。自ら輝いている光なのか、こっちを見てと瞬きしている光なのか、後ろ向きに鈍く光っているのか、弱々しい光なのか、光り方はそれぞれ違います。子ども一人一人がもっと輝くために、われわれ教員は、一人一人の光をじっくりと見ながら、瞬きに応える教育を行っていかねばなりません。

学校は子どもの幸せのためにあります。日々、子ども一人一人と真摯に向き合い、目の前の子どもにとって必要なことは何かを見極めながら、指導に当たっていきましょう。

子どもの成長のスピードとは、一人一人違うのが当たり前です。隣の子どもと比べてできていないからと言って焦るのは禁物です。子ども一人一人の頑張りを認めながら、「今日はこのことがわかったね」とか「今日はここまでできたね」といった声かけをしっかりと行っていけば、子どもたちは、愛情を感じ、学ぶ意欲を高めていくのだと思います。

この詩を紹介した後、下村先生から「校長先生はもうご存じだとは思いますが」と前置きがあり、控室に掲示されていた「どの子ども子どもは星」と書かれた立派な書を見せていただきました。この書は昭和58年頃から平成

成2年まで、また平成18年にも桜城小でご勤務された坂本信行先生が書かれたものだそうです。「白舟かく」という署名が入っていました。自分が紹介した詩が、実は、長年に渡り、桜城小きこえ・ことばの教室に掲示されていたと知り、何だかとても嬉しくなりました。

本年度もどうぞよろしくお願いたします。

《令和4年度 役員・研究会理事・地区会長・地区理事について》

今年度のきこL研の活動を推進して下さる皆さんです。宜しくお願いいたします。

役員	会長 紺野 好弘 (盛岡市立桜城小 校長) 副会長 梅野 展和 (久慈市立久喜小 校長) 会計監事 泉澤 毅 (盛岡市立下橋中 校長)	副会長 中村 幸子 (盛岡市立杜陵小 校長) 副会長 佐藤 司 (陸前高田市立気仙小 教諭) 会計監事 本田 岳雄 (盛岡市立厨川小 校長)
研究班理事	校長班 皆川 晃宏 (盛岡市立手代森小 校長) 難聴班 澤口 貴志 (北上市立江釣子小 教諭) 幼児班 佐々木せい子 (大船渡教育委員会研究所 言語教育指導員) LD班 小澤由希子 (奥州市立岩谷堂小 教諭)	
地区会長	盛岡地区 中屋 豊 (盛岡市立厨川中 校長) 花北地区 藤田 浩人 (北上市立黒沢尻東小 校長) 両磐地区 伊東 洋司 (一関市立東山小 校長) 宮古地区 五十嵐善彦 (宮古市立千徳小 校長)	岩手地区 小野寺俊哉 (岩手町立沼宮内小 校長) 胆江地区 近藤 純一 (奥州市立前沢小 校長) 上関伊・気仙地区 志田 知美 (大船渡市立立根小 校長) 県北地区 川村 憲弘 (軽米町立軽米小 校長)
地区理事	盛岡地区 藤村 隆 (矢巾町立不動小 教諭) 花北地区 金野奈緒美 (北上市立黒沢尻東小 教諭) 両磐地区 石川 幸子 (一関市立室根小 教諭) 宮古地区 畠山栄美子 (岩泉町立岩泉小 教諭)	岩手地区 岸本 洋行 (滝沢市立鶴飼小 教諭) 胆江地区 村上 春枝 (奥州市立水沢南小 教諭) 上関伊・気仙地区 佐々木久美子 (大船渡市立盛小 講師) 県北地区 下町 美喜子 (普代村立普代小 教諭)
事務局	事務局長 下村 絹子 (桜城小) 事務局員 中塚 貴子, 堺 秋子, 佐々木真子 (桜城小) 大志田 裕子 (杜陵小) 柴田 正徳 (青山小) 熊谷亜紀子 (津志田小) 佐藤久美子 (下橋中) 盛内 俊彦 (好摩小) 牟岐茂里雄 (大更小)	小野寺佳織 (厨川小) 関 幸子 (手代森小) 庄司 悦子 (厨川中) 菊池 朱理 (滝沢東小)

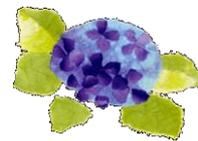
今年度の県内の教室設置状況等

(人)

	通級指導教室担当		特別支援学級担当		巡回指導担当	合計
	小学校	中学校	小学校	中学校		
ことばの教室	86	0	0	0	5	91
きこえの教室	1	1	20	12	0	34
LD等通級指導教室	16	12	0	0	0	28
合計	103	13	20	12	5	153

(人)

幼児教室担当	29
--------	----



【令和4年度 学級・教室数の変動状況】

<p><新設></p> <p>盛岡市立向中野小学校 きこえの教室 矢巾町立矢巾中学校 きこえの教室 北上市立上野中学校 きこえの教室 奥州市立胆沢中学校 きこえの教室 一関市立舞川小学校 きこえの教室 遠野市立遠野中学校 きこえの教室</p> <p><開設></p> <p>北上市立和賀東中学校 きこえの教室</p>	<p><閉級・閉設></p> <p>矢巾町立煙山小学校 きこえの教室 花巻市立花巻中学校 きこえの教室 北上市立和賀東小学校 きこえの教室 奥州市立胆沢愛宕小学校 きこえの教室 奥州市立常磐小学校 きこえの教室</p> <p><校名変更></p> <p>一関市立室根東小学校 ことばの教室 ⇒一関市立室根小学校 ことばの教室</p>
---	---

〈研究推進について〉

1 研究主題

めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～ 活動の機会を広げる工夫 ～

2 研究内容

- 【1・2年次】(平成30年度・令和元年度)
 - ・「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の見直し
 - ・自己の課題に気付く学習活動の工夫
- 【3年次】(令和2・3年度)
 - ・学習への意欲を促す評価の工夫
 - ・主体的に人と関わる学習活動の工夫
- 【4年次】(令和4年度)
 - ・研究のまとめ
 - ・次年度研究テーマの検討

3 研究に関わって

(1) 研究の内容

- 本会の研究主題を基に各研究班・各地区研究会が研究テーマを設定し、進める。
 - ・子どもに対するアセスメント
 - ・難聴・言語障がいおよび発達障がい等への指導・支援

(2) 研究の方法

- ・授業研究 ・文献研究

(3) 研究成果の発表 校長班・難聴班・LD班・地区研究班(全地区)

〈事業について〉

○ 第39回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研修会

<期 日> 令和4年5月6日(金) <会 場> いわて県民情報交流センター「アイーナ」

<参加者> 141名(会員139名 一般参加2名)

※研修会資料の購入を希望される方は事務局までお問い合わせください。

○ 第63回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会

<期 日> 令和5年1月10日(火) <会 場> いわて県民情報交流センター「アイーナ」

<内 容> ・分科会(研究班・地区研究会の研究の発表と協議)、開会行事、講演
・日程、内容の詳細、交流会の開催等については、第2回理事会で協議する。

*開会行事の中で、感謝状贈呈を行う。

対象者は、各地区で推薦し、第2回理事会で決定する。

〈編集・刊行・調査について〉

- 令和4年度版 きこえ・ことば・LD等通級指導教室及び幼児教室の担当者名簿
- 会報「県きこL研ニュース」年4回発行予定
- 令和4年度 きこえ・ことば・LD等・幼児教室 指導幼児児童生徒数の調査

〈お知らせ〉

- 第51回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会「北海道大会」について
令和4年9月15日(木)～10月15日(土) オンデマンド開催

(Y o u T u b e) による映像配信



第39回 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研修会 報告

- 1 期 日 令和4年5月6日（金）
- 2 会 場 いわて県民情報交流センターアイーナ
- 3 参加人数 141名

今年度は、各講座で十分なソーシャルディスタンスを保つことができるように座席等にも配慮をしながら、午前中8つの講座に分かれて研修を行いました。



講座A1 ことばの教室における教室経営
八幡平市立大更小 指導教諭 牟岐茂里雄 先生



講座B1 難聴についての指導・支援 I
岩手県立盛岡聴覚支援学校 教諭 高橋早那英 先生



講座C LD等通級指導教室における教室経営
盛岡市立厨川小 教諭 小野寺佳織 先生
盛岡市立厨川中 教諭 庄司 悦子 先生



講座E 吃音についての指導・支援
盛岡市立桜城小 教諭 鈴木 亜紀子 先生



講座A2 発音についての指導・支援
陸前高田市立気仙小 教諭 佐藤 司 先生



講座B2 きこえの教室における授業づくり
北上市立江釣子小 教諭 澤口 貴志 先生



講座C 2 LD等通級指導教室に
おける授業づくり
盛岡市立青山小 教諭 大澤 陽子 先生



講座F 口唇・口蓋裂についての
指導・支援
滝沢市立鶴飼小 教諭 岸本 洋行 先生

午後の研修は、言語通級指導教室担当は課題別で、難聴班、幼児班、LD班に分かれて研修が行われました。現状報告、指導や支援の仕方、今後の運営方針等について、意見交流が活発にされました。

<教室経営1>

指導状況報告書、巡回指導、指導方法、言語検査等、各教室の運営上で困っている点を中心に話し合いがされました。特に、巡回指導時の教室環境やメリット・デメリット、就学時健診時に言語検査を行うことのよさについて話題になりました。オンライン指導についても話題になりました。

<構音障がい1>

コロナ禍での指導、巡回指導のポイント、落ち着かない子の指導、終了の目安の4つについて、実践を中心に情報交換しました。

マスクや教材等（お菓子を含む）の使用時に感染予防をしながら、各教室で工夫していることが分かりました。



<構音障がい2>

言語検査の見極めや指導方法（「キ」、「チ」、ラ行、置換、歯間化）について、情報交流をしました。コロナ禍におけるお菓子を使った指導についても話題になりました。

<構音障がい3>

経験年数の短い方が多く、指導への不安や疑問が多く寄せられました。機能訓練や母音指導の大切さ、発音の見極めの仕方等について、具体的な例をあげながら意見交換しました。「子どもと楽しみながらやってみましょう」という結びとなりました。



<吃音・緘黙 2>

緘黙・吃音の具体的な指導内容について、交流しました。個別、複数での学習の中で、「話す（筆談等を含む）、聞く」のやり取りを通して、「吃音、緘黙と向き合っていくことのできる力」をつけることが大切という意見が多く出されました。また、保護者、担任、担当で児童のよさを共有する必要性も確認しました。

<吃音・緘黙 1>

教室での実践を織り交ぜながら、各教室での指導について情報交換をしました。中学校の進学にあたっては、支援が必要な場合は、指導計画や支援計画についても引き継ぐ方がよいという意見がありました。中学生の保護者からの相談が増えてきていることも話題になりました。

<言語発達遅滞 1>

言語発達遅滞の見極めについて、諸検査用紙の活用等について話し合いました。カードやドリル、タブレットを使用した指導の情報交換がされ、どこまで指導すべきか、悩む様子もみられました。

<口蓋裂>

具体的な指導内容（機能訓練、発音指導等）について、実際に行っている指導を中心に意見交換をしました。

また、医療とのつながりについても、助言をいただきました。



<幼児班>

教室の様子を交流する中で、言語発達遅滞等、発達課題を抱える子どもへの対応について、保護者への寄り添い方、指導について、課題が出されました。

幼児班の研修会では、課題や疑問点を一つ一つ解決していく機会にしていくことを確認しました。

<難聴班>

今年度の難聴班の運営の見通し、8月5日に予定されている研修会内容の確認をしました。

その後、日常の課題や実践、中学校の入試についてなど、情報交換をしました。



<LD 班>

今年度の各地区の研究テーマについて発表しました。

また、小中学校（小学校は地区ごと）に分かれ、各地区の現状や今年度の研究に対する取り組みについて意見交換をしました。